

# 愛肢連

第165号

発行責任者

愛知県肢体不自由児・  
者父母の会連合会  
愛知県岡崎市北本郷町神明25  
荻野義昭  
TEL.0564-31-6096

## 令和7年 年頭の挨拶

愛知県肢体不自由児・者父母の会連合会 会長 荻野 義昭



令和7年を迎えみなさまに新年のご挨拶を申し上げます。

今年は巳年。古来より巳は儀式やシンボルに使われる神聖なものとして扱われてきました。また、脱皮をする生き物として

新たな機会に恵まれる、挑戦するといった躍進する年に相応しい干支のようです。みなさんはどんな事に挑戦するのでしょうか。日々の生活でちょっとした変化に気付くことも大切な挑戦と思います。子どもの可能性は無限にあります。私たちはその可能性に気付かず日々の生活を繰り返しているのかもしれませんが。昨日出来たことが今日も出来る。昨日出来たことより少しだけ多く今日は出来た。昨日出来たことが今日は少しだけ長く出来た。色々な可能性があります。そんな少しの変化は毎日見ていると気がつかないのかもしれませんが。でも振り返って見たら1年前より何か変わっているところがあればそれは成長したと言うことです。究極は今日も生きています。それだけで昨日を脱皮しているのです。そんな我が子を誇ってください。褒めてください。そんな毎日が続くことが私たちにとって毎日の挑戦だと思えます。

昨年は大きな災害が続きました。能登半島地震を皮切りに地震や豪雨、森林火災や大雪など地域性の災害もありますが改めて日本列島は災害国だと認識されました。4枚の地

殻の上にある日本列島は地殻変動（地震）が日本列島を作りました。日本人は地震を神聖なものとして捉え火山と共に生きる術を身につけました。大雨は田畑を潤しましたし、瞬く間に流れてしまう雨を蓄える技術を持つことで稲作の範囲を驚異的に広げました。日本人は災害を知り減災する事で被害を軽減してきました。将来自然のエネルギーを活用する技術が上がれば日本はエネルギー大国になるのかもしれませんが。

愛肢連は60年の時を刻み発足当時の考えからは時代に合わせて変わってきたと思います。親の要望も時代と共に変わりました。それは愛肢連の活動の成果と言えらると思います。そして社会資源が増えてきたことで私たちに選択肢が出来ました。まだまだ足りない社会資源も多いですが、なにが足りないのかが見えてきたのではないのでしょうか。私たちの活動は終わりのない活動だと思えます。子どもが成人すると要望も変わるように、新たに生まれた子ども達の環境も以前とは違ってきていると思えます。社会の変化に沿うように半歩先、一歩先の目標を掲げて愛肢連を進めていく必要があります。

令和7年を少しでもいい年に出来るようみなさんと共に進めていきたいと願っています。みなさんおひとりお一人の上に幸せが訪れ笑顔の日々が続きますよう願って新年の挨拶と致します。

## 新春を迎えて

愛知県知事 大村 秀章



あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

去年は、「ジブリの大倉庫」「青春の丘」「どんどこ森」「もののけの里」に続き、「魔女の谷」が誕生し、「ジブリパーク」がフルオープンしました。

そして、10月には、2019年の構想発表から5年をかけて整備してきた、国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」がグランドオープンを迎えました。

世界中から注目を集める2つの施設の完成により、新たなステージへ、また一歩、大きく歩みを進めることができました。

今後も、これらの施設を起点に、世界中から、たくさんの人、最先端の技術・サービスを呼び込み、愛知をさらに元気にしてまいります。

さて、今年7月、いよいよ、アジア最大級・世界最先端のスマートアリーナ「IGアリーナ」がオープンします。スポーツやエンターテインメントの新たな拠点として、「ジブリパーク」や「STATION Ai」との相乗効果を生み出しながら、世界と大交流する愛知を創り上げてまいります。

また、愛知万博20周年となる今年は、3月25日に「愛・地球博20祭」が開幕します。「ジブリパーク」ともコラボレーションしながら大いに盛り上げてまいりますので、ぜひ、楽しみにしていただきたいと思います。

2026年の「愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会」、2028年の「技能五輪国際大会」など、今後も、愛知を元気にし、日本を元気にするプロジェクトが続きます。グローバル化の進展やAI等のデジタル技術の急速な発展など、世界が大きく変化する中、今後も、これらのビッグプロジェクトを着実に進め、日本の成長を牽引してまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、喫緊の課題である人口減少・少子化対策を始め、社会インフラ整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上、次代の愛知を担う「人づくり」にも全力を注いでまいります。

引き続き、「日本一元気なあいち」、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2025年 元旦



## 新年のご挨拶

一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会 会長 清水 誠一



輝かしい令和7年の新春をご健勝で迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

愛知県肢連は荻野義昭会長のもと、「名古屋・西尾張・東三河・西三河」の4ブロックを中心に療育キャンプ等の事業を実施し11月には「わいわいカーニバル」、12月はクリスマス会を地域父母の会中心に勢力的な活動で愛知県肢連ブロック・会員の皆さまの底力を感じさせられました。

昨年は「第57回全国大会並びに第58回近畿福祉大会奈良大会」を9月14日～15日に、「～重層的支援体制 誰一人取り残されない社会をめざして～」をテーマになり100年会館で開催されました。記念講演で吉藤オリィ氏が開発した分身ロボット「OriHime」は重度の障害児者も身近で自由に利用することで希望と生活に潤いをもたらす大きな発見でした。2日目の分科会で昨年1月1日の能登半島地震を契機に災害対策の重要性に関して～みんなで助かる防災～として私たち自身が災害発生時・前後を予測して対応することの必要性を研修する機会でもありました。全肢連各ブロック大会も6圏域で通常通り開催いたしました。さわやかレクレーションも当初より件数も増加しふれあい活動もコロナ禍以前に戻りつつあります。公益財団助成事業のJKA事業、福祉財団事業の相談事業も予定通りできましたのも愛知県肢連を始めとする各都道府県肢連の皆さま方に改めて感謝申し上げる次第です。

国は昨年「障害児・者の福祉計画」を改訂しました。全肢連で障害福祉サービス等に係る地域格差の実情・補装具等の選定・災害時

対策について調査を行ったところ、依然として地域格差は解消されず自治体の障害福祉計画作成時のニーズ調査は行われず、補装具の選定でも利用者・更生相談所・自治体で乖離が生じています。全国県肢連から「令和7年度心身障害児者に関する要望」をいただき中央省庁とヒアリングを行っていますが、本年度はそれら個別案件を含め老障介護の課題、福祉人材不足を理由にした短期入所・重度(医療的ケア含む)障害児者利用の事業所不足と地域偏在は制度上の課題です。

今後、特に障害福祉サービス等について「いつ・どこでも・平等に」必要なサービスが給付されるための自治体へ啓蒙と理解を求め地域格差のない仕組みを求めてまいります。公益財団助成事業等は申請中ですが、重度障害者(医療的ケア含む)が「障害を通し安心安全に利用できるグループホーム等」とし、車いす等の補装具の選定、障害福祉に係る困りごと・意見等を聴取する相談事業を行う予定です。地域父母の会に誰もが参加できる「さわやかレクレーション」・日頃の修練の成果を表現する「あーと展覧会」は年々参加数が増加してまいりました。奮ってご参加をお願いいたします。

ご協力いただいておりますコカ・コーラボトラーズ各社のご支援は全肢連・都道府県肢連父母会活動の主となる原資であります。是非「自動販売機設置促進」にお力をお貸し願います。

終わりに、愛知県肢連、地域父母の会、会員・関係者の皆さまのご健勝と更なるご発展・ご活躍されますことを祈念し新年にあたってのご挨拶といたします。

令和7年1月1日

# 第42回 愛知県心身障害児(者)福祉大会

12月7日(土)愛知県社会福祉会館にて、牧野副知事にご臨席いただき、愛知県心身障害児(者)福祉大会が行われました。2部は「まりいず」の皆さんの公演でした。ボーカルの弓立まりさんは、難聴と自閉症のお子さんを育てていて感じたオリジナルの歌やお話を交えたライブに、参加された

皆さんも心洗われる時間を過ごしました。

次の皆さんが表彰されましたのでご紹介します。おめでとうございます。なお自立更生の原田さん、牧野さんはお仕事のため欠席されました。援護功労者の山田さんも所用につき欠席されました。(順不同・敬称略)

## 【愛知県心身協会長表彰】

<自立更生者> 今泉 理恵 (岡崎市)  
原田 辰徳 (岡崎市)  
前川久美子 (岡崎市)  
牧野めぐ美 (岡崎市)

<援護功労者> 杉本 正照 (一宮市)  
鈴木 順子 (一宮市)  
山田 竹子 (豊川市)



## 祝 二十歳 おめでとうございます (敬称略)

<一宮市> 清滝 駿太 佐藤 颯真  
鈴木 晴也  
<小牧市> 喜多須桜奈 浅田 七海  
<岡崎市> 志賀 咲良 近藤 航  
<豊橋市> 指宿 雅慶 片山 陽太  
城所日千香 高橋虎太郎  
鳥島 大翔 福井 愛  
村田 椿

# 成人の日



## 令和6年度東海北陸指導者育成セミナー

## ～ 障害福祉サービス等の給付・補装具等の選定～

### 「アンケート調査に基づいて 他」

開催日	令和6年11月2日(土)～3日(日)
会場	四日市市地場産業振興センター (じばさん)
講師	防災士 田中健一氏 及び 全肢連役員

愛肢連会長 荻野 義昭

今回は全肢連会長清水誠一がZoomで講師を務めました。令和5年度の「重度障害者対応共同生活援助の支援体制の在り方」検討事業（公益財団法人日本財団助成）としてアンケート調査、「ともに生きるシンポジウム」大津、障害福祉サービス等報酬改定に関する意見等及び、全肢連地域父母の会相談事業の報告書を基に行われました。

調査数 343名の当事者のうち17才以下は1割、18～39才は6割、40才以上が3割でした。親の年齢が49才以下は1割、51～69才が3割、70才以上が2割になりました。

#### <災害時の個別避難の在り方について>

避難行動要支援者名簿届け出は6割の方が届けていますが、避難行動要支援者名簿の作成は市町村に義務づけられています。個別避難計画は努力義務ですが相談支援専門員と連携して取り組むことが指針で示されています。私たちは市に任せるのではなく自ら計画に参画するようしなければなりません。ハザードマップの確認、独自の避難先の確保など自らの努力で少なくとも1～2日は行政に頼らない避難行動が必要となります。

#### <介護給付について>

介護給付は「訪問活動」（重度訪問介護・居宅介護）、「日中活動」（生活介護事業所・短期入所）、「居住支援」（共同生活援助・入所施設）の3つと「補装具の支給」で構成されています。

報酬については令和6年度改定され、区分6で62,050単位となりました。これは330時間/月（10時間/日）になります。24時

間介護が必要な場合720時間/月が必要になります。中には1,000時間/月支給している自治体もあります。これは複数人介護が必要な方に対して支給されています。（神戸、鳥取）また、65才以上の方は介護保険が優先されて支給されます。でもこれは必ず介護保険が先行しなければならないとは謳っていないそうです。きめ細かなサービスは障害福祉が手厚くなっているからです。

#### <地域格差について>

最も大きな格差の要因は国が明確な基準と財源を示していないとありました。ただ、地域に対応出来る施設が無い、人的スキルが無いなど特に小さな自治体では難しい問題を抱えていることも分かりました。小さな自治体では財政面の問題も大きな要因となっているようです。

#### <重度訪問介護の利用について>

区分6・5の方で利用している方が4割、使っていない方（使えない方）は6割にも達します。これは医療的ケアに対応出来ない、重度障がいでは使えない、利用計画作成時に認めてくれない等の意見がありました。ここにも人的問題が絡んできます。研修を増やす、スキルの評価をするなどの改革が必要になります。

#### <短期入所の利用状況>

半数の方が利用していました。課題は、入所施設が無い、重度・医療的ケアに対応出来る施設が無い、予約が取れない等の意見が見られます。短期入所は本人だけでなく親の休息（レスパイト）や緊急時の対応などの他、当事者の自立に向けた体験の場としての役割も持っています。親離れ子離れをするために

も子どものうちからの利用をして欲しいと思います。また、高齢者施設の利用など既存資源の活用も大切です。

重度訪問介護の利用者のうち生活介護を利用している方は3/4に達し多くの方が利用しています。意見としては入浴回数を増やして欲しい、PT・OTリハをして欲しい、若い支援員を望む等の意見があり、ここでも人材不足が表われています。これは事業所不足が顕著で人材の確保が出来ないことに由来しています。令和6年度報酬改定で1.12%増となりましたが、実態に即していない低い水準と感じます。

今回は重度障害者が主に対象となりましたが、アンケート調査からは社会的資源を使っていない(使えない)方が多くいることが見えてきました。その方達の支援者は誰なのでしょう。両親、兄弟、祖父祖母といった身内が多いのではないのでしょうか。子どもが小さいうちは親も若いので続けられるのかと思いますが、年齢を重ねる毎に支援者の出来るものが減っていくと当事者の生活に支障が出てくるのではないかと心配になります。今ある社会資源を有効に活用している方は更なる利用促進に向けた働きかけを行い、利用していない方が知らないのであれば資源を知り活用し前向きになってもらう、そして利用できる社会資源がないのであれば出来るよう働きかけを行うといった自らの行動が必要になるものと思います。ここに父母の会が必要となる場面ではないかと考えます。

### 「防災！一瞬の判断と備え」

～障害児者と家族の皆様は突発的な  
自然災害に対処できますか～

名古屋市 松岡美由紀

講師 田中健一様のお話を2日間にわたりお聞きしました。ご本人が1995年1月17日(火)午前5時46分発生の阪神淡路大震災に、六甲アイランドのマンション内で被災され、九死に一生を得るような経験をされた

ことを話されながら、いろいろな震災場所に行かれての話をしてくださいました。

### ●障害児者と家族の災害時の避難のあり方について

- ・個別避難計画…災害時にどのような支援が必要なのか？誰が支援するのか？を平時から計画しておくものです。災害時に必要となる情報がすべて記載されます。身近な地域の人々と情報を共有し、訓練を通じた支援体制を確立することで、障がい者や高齢者の命を守る取り組み、特に医療的ケアが必要な方に対しては、早期の計画を作成していく。
- ・具体的な避難ルートや避難所での支援内容を盛り込むことも重要。作成にあたり、日常の支援を担当している福祉専門職(ケアマネージャー、相談支援専門員)、訪問看護師などの方々と作成。
- ・避難訓練の実施…令和4年の調査で参加率3~4%。避難所までの道のりや、避難所での過ごし方を体験することが重要。災害時の不安を軽減し、迅速な避難行動がとれるようになるはず。
- ・避難所のバリアフリー化…段差の解消や車いす対応のトイレの設置など、快適に過ごせる環境を整えることが重要。
- ・避難支援のためのアプリケーション開発…技術の進歩により、避難支援のためのアプリケーションも開発。災害発生時に難しい経路を案内したり、支援が必要な方の情報を迅速に共有する。避難計画を既存の防災アプリなど事前に登録し、災害時に備え最適な避難ルートを確認しておくことも重要。

名古屋市の防災危機管理局地域防災課が、令和6年度個別避難計画作成モデル事業を行っているのですが、私の息子は対象者ではなく、今後どのようにしていくのか？心配です。用紙なども見本は持っているのですが、少し個人的に記入してみようと思っています。指導者育成セミナーに参加させていただき、ありがとうございました。

## 補装具等に係る車イスと座位保持装置の選定

小牧市 上田 幸恵

車イスのシーティングの大切さは、座位の不安定な方ほど痛切に感じているのでは？側彎や褥瘡等の不調を起こしてからでは元の状態に戻るまでに症状の悪化、二次障害の進行が心配されます。車イスは高価なものですが、毎日何時間も使用する生活に欠かせない必要な装具です。ですが、成人すると2台目の支給が大変困難になります。

児童であれば成長に伴い、3年程度で買換えが可能でした。成人後も身体の変化はあり、高校卒業後に身長が15センチ以上伸びたうちの子は買い替えを認められませんでした。今回の研修会で示されたアンケート結果で複数台の車イス利用をされている方が介助式・自走式タイプ併せて『343名中43名』かなり少ない印象を受けました。

- ・屋内、屋外で使用するタイプが違う。
- ・成人後の2台目の支給はかなり困難。認めてもらえないことが多い
- ・市町村、都道府県によって支給に差がある。統一した支給の在り方を要望したい。
- ・修理となったときに1台しかないと外出できない。
- ・修理に時間がかかることもあり、代車として身体に合わないものでも使用するしかない。可能なら2台の車イス所持。3年ほど時期をずらして購入を認めてもらい、修理や買換えの時期が重ならないようにし、常に身体に合った物を使用出来ればと思いました。

### <補装具に係るシーティングの活用と

#### 座位保持装置の選定と支給状況>

シーティング利用に関しては『知らない』と回答された方『343名中120名』座位保持装置の選定、支給（頭部・座位・下肢保持など）については複数回答で『343名中186名』正しい姿勢を保持するには不安があるように感じました。

### ●アンケート結果

- ・姿勢を正しく保つことが難しい
- ・痛みや窮屈な姿勢で長時間使用できない
- ・旅行や遠距離の移動が困難
- ・背中が蒸れる。褥瘡ができるため、長時間は乗れない
- ・側彎の進行、緊張で体が硬くなる、背中が曲がり長くは乗ってられない。
- ・成人すると車イスも大きくなる。エレベーターが狭い等々。これもうちの子の話になりますが、身体に合った車イスなら外出しても楽しく過ごさせています。1日乗っていても褥瘡も傷も出来ません。本当に大切で不可欠な補装具の1つです。

### <市町村事業『オムツの給付』状況について>

『343名中197名』の方が給付を受けていますが、『115名』の方が不足していると答えています。給付を受けるには医師の意見書等をもって市町村の窓口での申請が必要です。

市町村事業のためかなりの違いがあるようです。小牧市では知的障害の方でも医師の意見書があれば支給されます。逆に他県では「脳性麻痺かつ意思表示困難・排尿排便障害」以外は認めないとし、医師の意見書があっても支給されないそうです。物価の高騰もあり、同じ様な症状でありながら、支給が認められないのは不思議です。

国の支援としては令和3年で終了し、市町村地域支援事業として継続と物価上昇への対応も併せてお願いしたいです。（1ヶ月の助成額は平均で12,000円）

災害時の備蓄品としても必需品と思っています。特にサイズが「大人用SS」と店頭にもほとんどないため、もしもの時には支援物資には無いだろうと、『自助』での備えを今回のセミナーで強く認識しました。会員のみんなへ伝えたいと思います。ありがとうございました。





## 西尾張療育キャンプ

7月21日(日) 名古屋市科学館および昭和日常博物館ほか

夏休みに入ったため、名古屋市科学館は早朝から大行列でしたが、団体予約をしていたため車いす席も特別に用意してあるなど、スムーズに入ることができて楽しめました。

☆☆

春日井市 田中 雄志

昭和日常博物館へ行き、昭和の名車を見れてよかった。ホテルバイキングでは、たくさん食べました。おいしかったです。

名古屋市科学館ではプラネタリウムを見ました。でも寝てしまいました。それでも貴重な体験でした。ちなみに、母は素敵なナレーターに酔いしれ、満天の星を楽しむことができたとのこと。僕はまたこういう体験がしたいです。



## 豊川野外例会

10月6日(日) 航空自衛隊浜松広報館エアパーク&はままつフラワーパーク

豊川市 柴田 依子



樹も私も何年かぶりのイベント参加ということで、とても楽しみにしていました。皆さんとの久々の再会に、「大きくなったね~!」「歩けるようになったね~!」と声をかけてもらい、樹も大

笑いしながら皆さんの会話に積極的に参加している姿を見て、私も嬉しく楽しい時間を過ごすことができました。

ボランティアの皆様にもたくさんお手伝いいただき、ありがとうございました。父母の会の皆さんの元気な姿も見ることができ、貴重なお話もたくさん聞くことができ本当にありがたいと思える一日でした。

## 田原ホースセラピー

10月26日(土) ピッコロファーム

予定していた日時に、馬の体調がすぐれず延期となりましたが、無事行うことができました。

☆☆

豊川市 柴田 依子



楽しかったことは、さいしょの馬に乗ったことが楽しかったです。馬のマルちゃんが、みつあみをしていてかわいかったです。馬に乗る前は少しドキドキしたけれど、乗ってみたら高くてけしきが良かったです。

最後のえさやりも楽しかったです。馬の鼻をさわってみたら、ぶにぶにしている気持ちよかったです。にんじんが食べれないマルちゃんが、さくから鼻を出していてかわいかったです。久しぶりにホースセラピーへ行って馬に乗ったり、えさをあげたりして楽しかったです。またホースセラピー体験をしたいです。

## 東三河ブロック療育キャンプ

11月16日(土)～11月17日(日) ホテルシーパレスリゾート

6年ぶりの宿泊での療育キャンプを行いました。大浴場がバリ風の作りで、ボランティアさんが水着で子どもたちの入浴介助をしてもらった。ホテル側の理解もあり、一般のお客様にも障害者がどのように入浴するのかを見ていただく機会にもなった。

☆☆

豊橋市 尾崎かおり



今回初めて参加しました。初めてなので息子と二人で日帰り  
で参加させていただきました。夕方前の集合であわただしくなく、  
ゆったり参加することができました。

夕食の前に「ガールズジェネレーションフォーエバー」さんの  
生演奏の歌やダンスの鑑賞会があり、息子も大好きな「となりの  
トトロ」が始まると、目をまんまるに大きくして楽しんでいました。  
食事会では、みんなでおいしい夕食をいただきました。胃ろうから  
食事をいただく息子には、ペースト食での対応をしていただけ  
ました。食材の美しい色ときれいな盛り付けを目で楽しみ、おい  
しい香りに鼻をぴくぴくさせて、少しだけ口からも味わい大満足  
でした。仲間と過ごす、楽しくておいしい時間はあっという間でした。「宿泊で参加すれば良かった  
ね!!」息子と話しながら岐路につきました。

## ふれあいコンサート&ミニ研修会「親族後見人は何をするのか？」

12月8日(日) 社会福祉協議会ふれあいセンター

直前でインフルエンザ、マイコプラズマ等の流行が見られたため、急遽内容を変更してミニ講  
座の延期し、ミニ講座は来年2月以降のインフルエンザ流行期を過ぎてから保護者中心になりま  
した。音楽療法の先生に来てもらい、クリスマスコンサートを楽しみました。



## クリスマス会

《東三河難病ネットクリスマス会》

12月14日(土)

豊橋市障害者福祉会館さくらピア

重心の子どもやきょうだい児のクリスマ  
ス会で、豊橋市民病院等の看護師さんや





今年はレディースレクわたぼうしさんにボランティアとして参加してもらいました。

わたぼうしさんのハローハローで始まったクリスマス会。クリスマスソング合唱で大いに盛り上がり、発声の難しい子も笑顔でメロディに合わせて体で表現していました。

## 《父母の会クリスマス会 2024》

午前の部はスタッフ手作りの内容で、午後の部は多くのご来賓にもご臨席いただき、恒例となった豊橋ユースオーケストラのクリスマスコンサートを行いました。サンタさんからお菓子のプレゼントをもらい、お土産のケーキを持ち帰りました。



## 理事研修会 (施設見学)

●開催日：令和6年12月4日(水) ●見学先：にしお特別支援学校・岡崎特別支援学校

### 理事研修会 (施設見学) に参加して

田原市 彦坂有美子



12月4日(水)、校舎が新築されて間もないにしお特別支援学校と岡崎特別支援学校へ見

学に行ってきました。

まず、2022年度から新設されたにしお特別支援学校へ。

愛知県内初の肢体不自由と知的障がいの両方に対応する学校とのことで、肢体不自由の学校しか見たことがなかったので新鮮でした。

肢体不自由の特別支援学校は比較的動きの少ない子供が多いので、活発に動き回る子供との交流は刺激になっていいのかなと思いました。

木材がふんだんに使われた校内はとてやさしい雰囲気、壁や柱には至る所に学校キャラクターが描かれていてとても可愛らしかったです。

岡崎に戻り、おしゃれなお店(きさらぎ)で和御膳をいただいた後は、岡崎特別支援学校へ。

県内で2番目に歴史ある学校ですが、今年4月に、自然豊かな本宿から、美合の農業大学の敷地内に新築移転されました。

エントランスに屋根付きの駐車エリアが充分あり、雨の日でも快適だろうなあと思いました。

こちらの校舎も木のぬくもりを感じられ、廊下も広々としていて、車いすや歩行器での移動も快適だろうなあと思いました。

校舎内に屋内プールやスヌーズレン室、充実した作業室などがある一方、敷地の関係で運動場がないのが残念に思いました。

どちらの学校も明るく居心地のいい空間になっていて、子供たちが安全に快適に学べる環境でうらやましく思いました。

私たちを歓迎して丁寧に案内して下さった両校の先生方に感謝いたします。ありがとうございました。



# 愛知県心身障害児(者)福祉団体連絡協議会との懇談会 議題への対応状況

11月7日(木) 愛知県議会議事堂ラウンジにて

### <参加者>

県会議員：寺西睦氏、村瀬正臣氏、ますだ裕二氏、伊藤たかはる氏、杉浦正和氏  
 県職員：牧野副知事、障害福祉課、医療療育支援室、福祉部総務課、福祉部地域福祉課、保健医療局健康対策課、感染症対策課、防災部災害対策課、公共建築部住宅計画課、教育委員会特別支援教育課  
 心身協5団体：愛知県手をつなぐ育成会、愛知県肢体不自由児・者父母の会連合会、愛知県重症心身障害児(者)を守る会、愛知県自閉症協会・つばみの会、愛知県筋ジストロフィー協会  
 愛肢連から要望したものだけを以下に掲載します。

区分	内容
団体名	愛知県肢体不自由児・者父母の会連合会
要望事項①	<p>1 パーキングパーミット制度を導入して下さい。</p> <p>現在愛知県では、「障害者等用駐車区画」の適正利用の啓発ポスターは様々な施設において掲示され目にすることがあります。</p> <p>しかしながら、やはりその駐車スペースを必要としている人が利用できず、適正利用されていないことが頻繁に見受けられます。</p> <p>そのため、パーキングパーミット制度を導入していただき、適正利用の普及に努めていただきたいと思います。(全国で40府県導入)</p>
現状・対応状況等	<p>「パーキングパーミット制度」につきましては、駐車場の利用対象者の明確化や障害のない人による不適正利用の一定程度の減少などのメリットがある一方、利用者証の交付対象者の範囲の他、民間の駐車協力施設の確保など本県で実施する上での様々な課題もあり、慎重に検討しているところです。</p> <p>現在本県では、障害者等用駐車場の適正利用に向けた普及啓発に取り組んでおりますので、今後とも必要とされる方が駐車スペースを利用できるよう普及啓発に努めるとともに、他県における「パーキングパーミット制度」の運用状況などを見ながら慎重に検討を進めてまいります。</p>
県の担当課室	障害福祉課

要望事項②	<p>2 障がい者へのインフルエンザ予防接種補助をお願いします。</p> <p>免疫力の低い心身障がい児者は、インフルエンザに罹患すると重症化するリスクが高く、冬季は特に体調に気を使い、外出も控えなければなりません。</p> <p>障がい児者の安心・安全な日常生活維持のために是非、高齢者同様に予防接種補助の検討をよろしくお願いいたします。</p>
-------	--

<p>現状 ・ 対応状況等</p>	<p>インフルエンザ予防接種については、重症化しやすいと考えられることから、65歳以上の方、60歳から64歳の方で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害があり身の回りの生活が極度に制限される方を対象として定期接種が実施されております。</p> <p>子ども等への接種については、任意接種となりますが、一部の市町村において独自に助成制度を設けております。県としましては、現時点において独自の助成制度の導入は考えておりませんが、各市町村における自己負担額の設定や任意接種助成事業の制度設計の参考とできるよう、各市町村の状況を取りまとめ、市町村への情報提供を引き続き行ってまいります。</p>
<p>県の担当課室</p>	<p>感染症対策課</p>

<p>要望事項③</p>	<p><b>3 大災害時の障がい者防災対策の早期取組の実現をお願いします。</b></p> <p>現在愛知県が行っている災害時の他自治体との連携について教えてください。</p> <p>今年に入り能登半島地震が起こり、宮崎県沖地震では南海トラフ地震臨時情報注意報が発令されました。また、各地で線状降水帯、ゲリラ豪雨、河川氾濫、土砂崩れ等、災害が多く発生しています。</p> <p>能登半島地震では9カ月間過ぎても地震発生時と変わらない現実が目の前にあり、更なる豪雨による被害に直面しています。</p> <p>これまでの災害対策が平時に考えられた机上の論理の上に成り立ち、それぞれが単独の災害として考えられてきたことも防災、減災に結びつかなかったのではないのでしょうか。</p> <p>能登半島地震の時に医療的ケア児を含め重度の障がい児者を数日の内に災害の少ない他市、他県の病院への搬送を医療関係者と共に障がい者団体が協力し行ったと聞いています。</p> <p>大災害の場合、被災自治体が災害対策を行うことは物理的にも困難を伴うと考えます。近隣の災害を受けなかった自治体からの早期の支援や機能の補完などあらゆる可能性を考える必要があると思いますが、現状の協力体制があれば教えてください。</p> <p>障がい者の避難について行政の枠を超えて避難しなければならない現状が能登半島地震ではありました。特に肢体不自由児者は災害が起こってからでは間に合いません。どのような対策が取られていて、なにが更に必要なのかを知ることは私たちにとってとても大切なことです。それらを把握し、誰一人取り残されない防災、減災対策と速やかな避難行動を呼びかけていきます。</p>
<p>現状 ・ 対応状況等</p>	<p>愛知県内における他自治体との連携については、県内すべての市町村が、ブロック毎の市町村間において、大規模災害等で発生する避難住民（以下「被災者等」という。）の一時受入れなどについて、災害応急対策に係る相互応援協定を締結しております。</p>

<p>現状 ・ 対応状況等</p>	<p>また、本県においても中部9県1市間で災害時等の応援に関する協定を締結し、被災者等の一時受入れ等を行うこととしております。</p> <p>この協定に基づく広域避難を円滑に実施するため、愛知県災害対策本部に「広域避難チーム」を設置して、受入れ先の自治体との調整を行うこととしております。</p> <p>なお、大規模災害時の在宅の障害者等の要配慮者が避難所等から他市や他県へ避難する必要がある場合には、県が市町村災害対策本部と避難先となる他縣市町村等との間で調整を行い、受入先の福祉避難所等において対応していくこととなります。</p> <p>特に、県内に大規模災害が発生した際には、県外からの応援も含めた医療に関する調整を行うため、愛知県災害対策本部の下に愛知県保健医療調整本部を設置します。</p> <p>障害者の避難の際に医療支援が必要となった場合には、愛知県保健医療調整本部を通じて調整を行います。</p> <p>福祉局では、厚生労働省が構築し、令和3年度から運用が開始された災害時情報共有システム等を活用し、県内の社会福祉施設等の被災状況や支援ニーズ等を把握し、支援を要請する関係機関等へ適切に繋げていくことが必要であると考えており、関係機関との連絡・連携の方法等について検討を進めております。また、保健・医療・福祉の連携を図るために、保健医療調整本部の訓練に福祉局職員も毎年参加し、平時から関係機関との連携体制の構築・強化に向けて取り組んでおります。</p> <p>県としましては、広域応援の円滑な運用が図られるよう、引き続きしっかりと取り組んでまいります。</p>
<p>県の担当課室</p>	<p>災害対策課 地域福祉課 医務課 福祉総務課 障害福祉課</p>



◆ 編 集 後 記 ◆

この会議の後、12月の愛知県定例議会で杉浦正和議員がパーキングパーミット制度について質問されており、12月6日付中日新聞朝刊の「視点」というコラムでも2026年のアジア・アジアパラ競技大会を見据えて、国内外から障がいのある観客の来県が見込まれ、統一的なルールが望まれる可能性もあると書かれていました。